

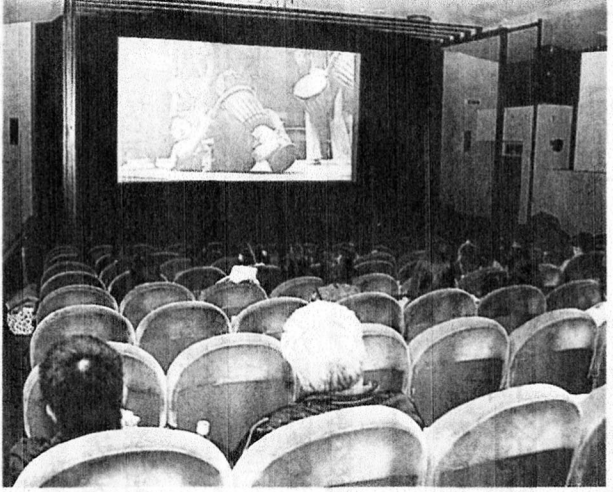
周囲の理解・支援もっと

地方 (8)

3・21 世界ダウン症の日

今年から、3月21日が「世界ダウン症の日」として国連に正式認定されたのに合わせ、日本ダウン症協会愛媛支部の会員らによる記念イベントが20日、松山市湊町3丁目のシネマルナティックであった。4月から同館で上映が始まるダウン症の青年の成長を追ったドキュメンタリー映画を先行鑑賞し、周囲の理解や支援体制の充実を目指して、関係者から思いを新たにしたい。

「世界ダウン症の日(3月21日)」は、ヒトの染色体のうち、ダウン症の人は21番目が3本ある場合が多いことから、2006年に世界ダウン



「世界ダウン症の日」を記念したイベントで、ドキュメンタリー映画を鑑賞する関係者。

ワイドえひめ

協会員 啓発へ思い新たに

松山で映画鑑賞会



国際デー認定を記念し、参加した当事者や家族らに記念品を配る日本ダウン症協会県支部

イベントでは、中村知子支部長が「国際デー認定をきっかけに社会のみなさんの理解や意識啓発の動きが高まることを期待したい」とあいさつし、記念品などを配布。映画は、少年期に夢中になった音楽を通して、才能や人とのコミュニケーションの輪を花開かせたダウン症の打楽器奏者の成長を記録したもので、参加者は真剣なまなざしで見つめていた。

同支部では、今後は家族への支援にとどまらず、当事者自身の自立援助にも積極的に取り組む考えで、「病気があるから何かをしてもらっただけでなく、この子たちから発信できることもある。悩んでいる家族やダウン症を知らない人々にも幅広く活動を知ってもらいたい」と話している。

(伊藤絵美)